

青葉区では、7月7日（日）に町内会役員を対象とした「町内会役員担い手講座」を開催しました。講座には23名の方にご参加いただき、町内会活性化のヒントについて講義を聞いたのち、グループに分かれて意見交換をしました。

「開催概要」

日時：令和元年7月7日（日）
13:30～16:30

場所：青葉区役所 4階会議室

参加者：23名

内容：講義

チェックシートを用いた自己診断
ワークショップ
発表・まとめ

■ 講義

株式会社KITABA常務取締役 内匠庸介氏から、地域コミュニティを支える町内会の必要性や、町内会が抱える課題、課題解決のための考え方やヒントなどの話題提供が行われました。

■ チェックシートを用いた自己診断

講義の後は、「町内会タイプ分類&自己診断シート」を使って、それぞれ参加者のみなさんに、世帯構成と居住形態から見た『町内会のタイプ』を診断してもらいました。



■ ワークショップの全体結果

ワークショップでは、町内会のタイプごとに4つのグループに分かれ、「町内会の課題」と「課題に対する解決のアイデア」を出し合いました。グループの発表では、町内会の担い手づくりなどに関してさまざまなアイデアが出され全体で共有しました。

※グループごとの意見やアイデアは裏面をご覧ください。

ワークショップ全体のまとめ

● 積極的な情報発信

- ・ 若い世代などに町内会を知ってもらうことが担い手づくりにまず必要である。
- ・ 町内会だよりを各戸に配布して情報発信する。
- ・ ただし、町内会だよりをだれが、どのようにつくるのか、またその予算が課題である。

● 参加・参画しやすい町内会の仕組み・体制

- ・ 役員選出のルールを変える。もしくは決める。
- ・ 町内会の会員を2つに分けて、2つのグループから交互に選出する。
- ・ 役員の任期を決めて輪番制にする。

● 交流や関係づくり

- ・ イベントを通じて、顔の見える関係づくりからはじめる。
- ・ 子ども会や敬老会、運動会、夏まつりなどのイベントでつながりづくりを行う。

● 他のコミュニティとのつながりを活用

- ・ 若い人同士のつながりやコミュニティを活かす。
- ・ そのために、SNSを活用して若い世代にも届く情報発信を行う。

● 役員の負担の軽減とイメージ払拭

- ・ 会長をはじめ、町内会役員の負担を減らす。
- ・ 役員が大変なイメージがあるため、そのイメージを変える。

グループごとの意見・アイデア

各グループでは、
このようなアイデアが出されました！



1

グループ

【課題】 役員の固定化・担い手不足、高齢化、世帯不足、関わり不足

【アイデア】

- 任期を決めてしっかり役員を回す。
- 子ども会などを巻き込んで顔の見える関係をつくる。

2

グループ

【課題】 役員になりたがらない、役員任期の長期化

【アイデア】

- 町内会を2つのグループに分けて、交互に会長を選出する。

【課題】 町内会の行事内容が毎年同じ

【アイデア】

- 敬老会と子ども会を一緒に開催する。
- 役員メンバーの交代で、新しい企画案を出していく。

【課題】 役員の高齢化

【アイデア】

- 町内の喫茶店などで若い人々に互いに呼び合ってもらい、イベントに参画してもらう。
- SNSを活用する。

3

グループ

【課題】 町内会のことが知られていない

【アイデア】

- 町内の住民全体に町内会活動が見えるように、毎月、役員会後に町内会だよりをつくり、各世帯に配布する。
- その際、制作者の確保や記事、予算などを考慮する。

4

グループ

【課題】 会長・役員の担い手がない

若い人は運動会や夏まつり等には参加するが、役員を引き受けたがらない

【アイデア】

- 会長の仕事が多すぎるので、負担を減らす。
- 輪番制を導入する。